



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

シンガポールの政策 文化・芸術編

2025年4月

一般財団法人自治体国際化協会 シンガポール事務所

目次

1. 文化芸術政策の遷移と現況
2. 行政組織
3. 文化芸術教育
4. 文化芸術事例

1. 文化芸術政策の遷移と現況



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

(1) 遷移

1965年	8月9日マレーシアから分離独立、シンガポール共和国が誕生
1989年	文化芸術評議会（Advisory Council on Culture and the Arts (ACCA)）設立。 初の長期計画「文化芸術評議会報告書（Report of Advisory Council on Culture and the Arts）」発表 →1999年までの向こう10年における行政組織の新設や複数の美術館の建設が明記
1991年	芸術評議会（National Arts Council(NAC)）設立 →アーティストへの助成金の交付などの支援を行う組織
1993年	国家遺産局（National Heritage Board (NHB)）設立 →美術館・博物館などを運営する組織
2000年	「ルネッサンスシティプラン1(Renaissance City Plan 1)」発表
2005年	「ルネッサンスシティプラン2(Renaissance City Plan 2)」発表
2008年	「ルネッサンスシティプラン3(Renaissance City Plan 3)」発表
2012年	「アート&カルチャー・ストラテジック・レビュー2012（Arts and Culture Strategic Review 2012(ACSR)）」発表
2018年	NACが「Our SG Arts Plan (2018-2022)」を発表
2023年	NACが「Our SG Arts Plan (2023-2027)」を発表

1. 文化芸術政策の遷移と現況



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

(2) 遷移と現況（1996年、2005年、2015年、2020年、2022年の比較）

指標	1996年	2005年	2015年	2020年 (コロナ禍)	2022年
公演と展覧会の開催日数	6,000日	19,000日	26,000日	21,000日	42,000日
有料公演への入場者数	75万人	126万人	195万人	22万人	110万人
無料公演への入場者数	— (※1)	221万人	278万人	200万人	306万人
経済効果 (レートは当時)	S\$5億6千万 (約431億円)	S\$9億7千万 (約640億円)	S\$17億2千万 (約1,500億円)	S\$13億8千万 (約1,063億円)	S\$17億1千万 (約1,625億円)
芸術関係企業・組織数	400社	650社	6,200社 (※2)	4,500社	5,300社
従業者数 (文化芸術業界)	16,000人	21,000人	27,000人	25,000人	25,000人

出典:Singapore Cultural Statistics(NAC)

※1 統計が開始された2003年の入場者数は99万人

※2 カウントする企業の定義が過去と異なる（メディア系企業も含む等）ため数字が激増している

1. 文化芸術政策の遷移と現況



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

(3) 現在の長期計画

Arts and Culture Strategic Review 2012(ACSR)

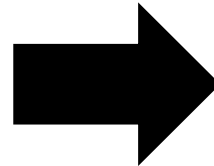
○2012年発表。2025年までの長期計画。

【目標】

「文化的で優雅な国民が、シンガポール人であることへの誇りを持った、帰る場所である国家となること」

(従前のプラン)

国家構築
経済発展



(ACSR)

従来のプランを継続
+
文化による人づくり
アイデンティティ形成

・ 経済的側面からの文化振興

継続しながら次のステップへ

- ・ パブリックコメントの活用
- ・ 人材育成の対象の拡大
(アマチュアも含む)
- ・ 文化芸術をアクセスしやすいものへ
- ・ 文化芸術が生活において必要なものという考えの定着
- ・ 幅広く適切な才能による文化や芸術品を生み出す

1. 文化芸術政策の遷移と現況



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

Arts and Culture Strategic Review 2012(ACSR)

【戦略と提言】

大戦略	小戦略と提言
①いつでも、どこでも、誰にでも、文化芸術を提供	1)新しい“層”の獲得
	2)生涯関われる仕組みづくり
	3)国家ムーブメントの喚起
②優れたパフォーマンスを達成する能力の育成	4)文化的施設、企業、芸術作品の発展
	5)才能を伸ばしプロ育成を支援
	6)より高いパフォーマンスを目指した仲間との協力



Arts and Culture Strategic Review 2012(ACSR)

【具体例】

- 1) 文化芸術に関与する新しい“層”を獲得する。
 - i) 学校のプログラムの質を高めるなどして、次の世代の参加者を育てる。
 - ii) 文化芸術Dayを作るなどして、日常生活や余暇で楽しめるものとする。
 - iii) 情報を集約したポータルサイトを作り、新しい媒体での発信の場を作る。
- 2) 文化芸術に生涯関われる仕組みをつくる。
 - i) 学校外で学習できる施設を作り、生徒が参加しやすい環境を作る。
 - ii) 人民協会のネットワークを利用して、退職者が参加しやすい環境を作る。
 - iii) 国や企業の所有するスペースを開放し、趣味で楽しむ人が練習や公演、展示をできるようにする。
- 3) 国家ムーブメントを引き起こす。

各選挙区レベルで芸術に興味関心をもつ人と連絡がとれるクラブを作ったり、図書館に情報提供できるような人員を配置するなど、国内で文化芸術に熱心な人たちのネットワークを作る。
- 4) 文化的施設、企業、芸術作品を発展させる。
 - i) シンガポール美術館を改装したり、エスプラネードシアターに中規模の公演会場を作ったり、アジア文明博物館のギャラリーを改良したりして、国の主要な文化施設をより良いものとする。
 - ii) 現在の助成金や支援スキームを見直し、組織の具体的なニーズを満たすことができるようなものとする。
- 5) 才能を伸ばし、プロになることを支援する。
 - i) 南洋美術専科学院やラサール芸術学校のカリキュラムを改良するなどして若い才能を育てる。
 - ii) フリーで活動する人の集まりや会計や財務などの管理業務を行う組織をつくり、プロが目標に向かって活動できるような環境をつくる。
- 6) より高いパフォーマンスを目指し、仲間と協力する。

税制優遇スキームや寄付制度を整備したり、文化芸術を企業のCSRに組み入れるなどして社会奉仕や企業の財政支援に強いインセンティブを与える。

1. 文化芸術政策の遷移と現況



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

Our SG Arts Plan (2018-2022) (NAC)

向こう5年間の芸術評議会（NAC）が優先して取り組むべき事項が示されている。

【方針と戦略】

方針	戦略
①人々をインスパイアする	1)NACの役割の更なる強化
	2)観衆の更なる獲得
	3)アート部門の多様な能力の育成
②コミュニティをつなげる	4)フリーランスの芸術家の支援
	5)テクノロジーの活用
	6)芸術研究の強化
③グローバルな立場の確立	7)アートの社会への影響力の強化
	8)海外展開



1. 文化芸術政策の遷移と現況



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

Our SG Arts Plan (2023-2027) (NAC)

【方針と戦略】

方針	戦略
①包摂性—つながった社会—	1)日常を通した“層”の維持
	2)体験共有によるコミュニティの強化
	3)支持拡大のための支援推進
②活気—独自性あふれる都市—	4)多様性と空間の規制解除
	5)地域・場所の活性化
	6)いたるところにアートを導入
③機会—創造性豊かな経済—	7)事業展開に向けた新手法の模索
	8)芸術的な才能の育成
	9)国際的な機会の拡大



(参考) 表現の自由と制限について

○シンガポール共和国憲法（第14条より）※1965年8月に成立

- ・ 基本的人権の保障において、自由を保障すると同時に「法律の留保」といった制約規定が存在する。
- ・ 言論と表現の自由は保証される
- ・ 但し、立法によって制限可能であくまでも条件付きの自由である
⇒議会において適切でないと判断される言論・表現については、立法により規制される可能性もある。

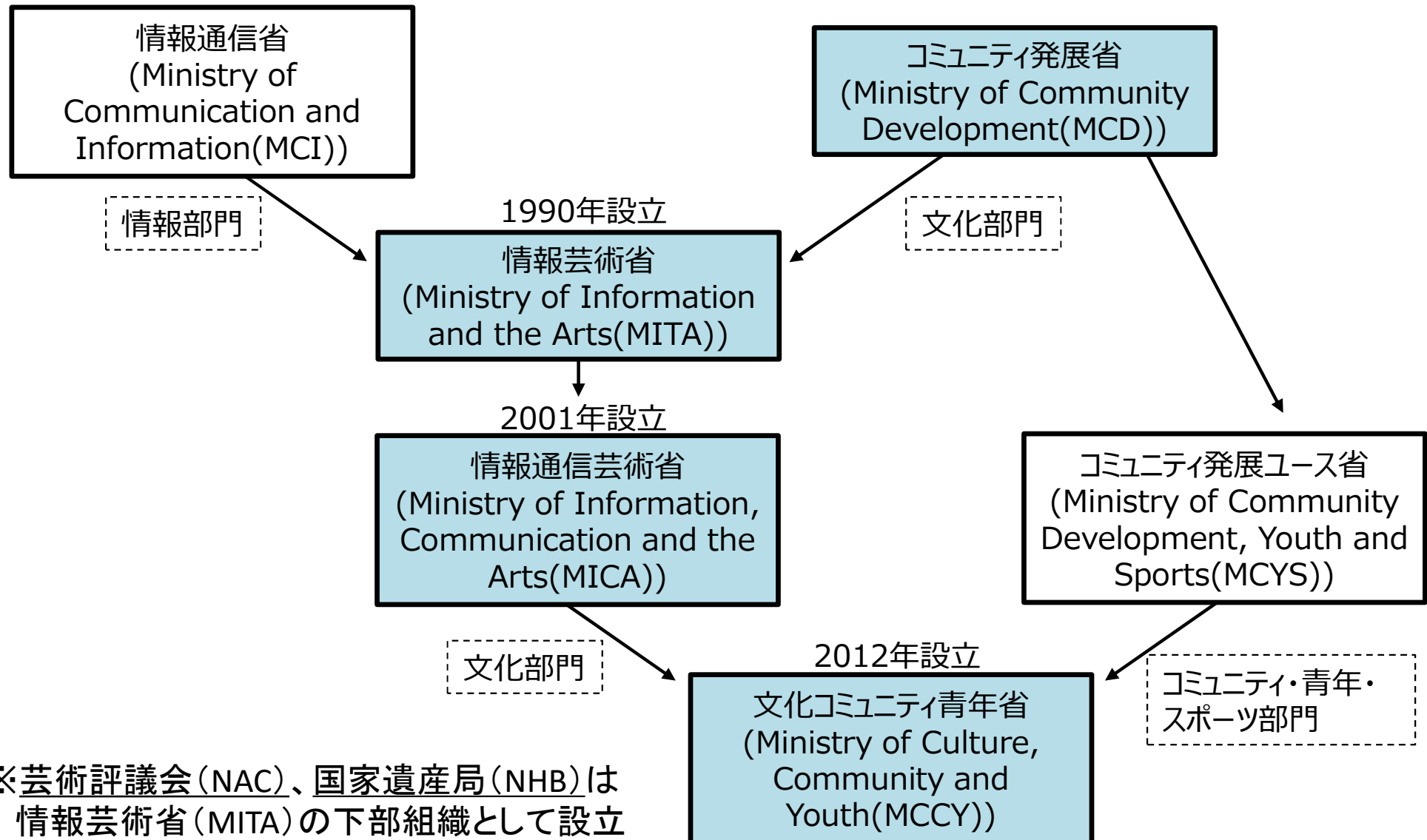
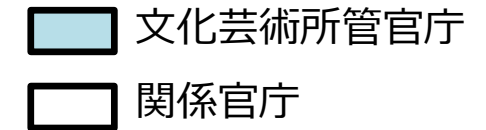
○世界報道自由度ランキング

- ・2025年はシンガポール123位（180カ国・地域のうち）
- ・日本は66位となっており、日本より報道の自由度が低い。

2. 行政組織



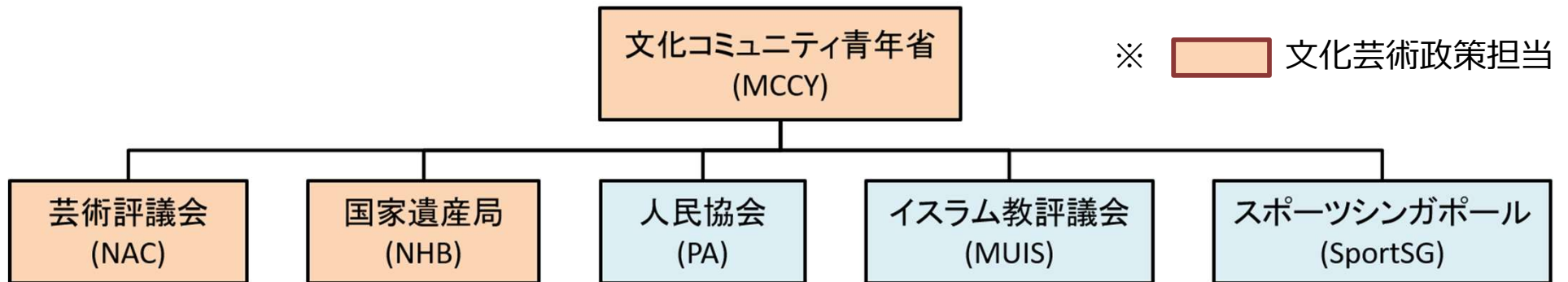
(1) 組織変遷



2. 行政組織



(2) 文化コミュニティ青年省 (Ministry of Culture, Community and Youth(MCCY))



【省の設置目的】

- ・ 文化やスポーツを通して、シンガポール国民を鼓舞し、若者たちを惹きつけ、コミュニティの絆を強化することで、結束力と思いやりのある社会を築く

【文化芸術政策】

- ・ 所管：芸術評議会（NAC）と国家遺産局（NHB）
- ・ ミッション：信頼・絆などの社会の連帯感の構築、シンガポール精神の刺激、故郷の構築
- ・ ビジョン：シンガポールを、充実した意欲的な国民、団結力と思いやりのある社会、自信に満ちた強靱な国家、そして我々が故郷と呼ぶ場所にする
- ・ 文化芸術予算：2025年度S\$27.8億（約3,141億円）※全体予算の2%程度

(3) 芸術評議会 (National Arts Council(NAC))

文化芸術政策を扱っていた4つの機関である「シンガポール文化基金(Singapore Cultural Foundation)」、「コミュニティ発展省(MCD)の文化部門」、「アートフェスティバル実行委員会(The Festival of Arts Secretariat)」、「ナショナルシアタートラスト(The national Theater trust)」が統合されてできた。

- ・ 1989年の長期計画「文化芸術評議会報告書」に基づき、1991年に設立
- ・ シンガポールの文化・芸術の振興政策を担う
- ・ ミッション：社会にインスピレーションを与え、創造性を刺激し、シンガポールと世界をつなぐ芸術セクターを支援すること
- ・ ビジョン：創造性あふれる都市
- ・ 主な政策
アーティストに対する助成金の交付、NACの施設の利用提供、アートハウジング事業



(4) 国家遺産局(National Heritage Board(NHB))

- ・ 1989年の長期計画「文化芸術評議会報告書」に基づき、1993年に設立
- ・ シンガポールの遺産を管理。国内の美術館、博物館などを運営。
- ・ ミッション：共有の遺産を守り、称える
- ・ ビジョン：過去に誇りを持ち、未来のために遺産を遺す
- ・ 所管施設：
アジア文明博物館/インドヘリテージセンター
マレーヘリテージセンター/シンガポール国立博物館/プラナカン美術館
切手博物館/孫中山南洋記念館/ブキ・チャンドゥ回想館



3. 文化芸術教育



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

(1) 中等教育～前高等教育

○School of the Arts (SOTA) (MCCYが運営)
シンガポール初の芸術専門中等教育機関（2008年設立）



対象	13歳～18歳
人数	一学年200人、全校1,200人
入学試験	芸術に関する試験、初等学校修了試験（PSLE）
卒業資格	国際バカロレアディプロマ
カリキュラム	学術分野+芸術分野+情緒分野

○学費（月間） 1年目から4年目（S\$ 1=113円で計算）

シンガポール 国民	シンガポール 永住権者	外国人(ASEAN)	外国人 (ASEAN以外)
S\$350 (約4万円)	S\$875 (約9万9千円)	S\$2,375 (約26万8千円)	S\$3,065 (約34万6千円)

出典：SOTA公式HP

3. 文化芸術教育



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

(2) 高等教育



南洋美術専科学院 (Nanyang Academy of Fine Arts)

1938年に設立され、現在は民間運営だが、政府からの補助金も得ている。卒業時には、ディプロマ、学位が得られる。3Dデザイン、芸術管理、デザインとメディア、美術、ファッション、ダンス、音楽、演劇のプログラムがある。



ラサール芸術学校 (LaSalle college of the Arts)

1984年に設立された非営利の民間芸術学校である。卒業時には、ディプロマ、学位、修士号が得られる。美術、映画とアニメ、クリエイティブ産業デザイン、デザインコミュニケーション、ファッション、空間デザイン、現代音楽、ダンスと演劇の8つの学部が用意されている。



シンガポール国立大学 (NUS) (Yong Siew Toh Conservatory of Music)

シンガポールで初めて、音楽の学士と修士号を得られる全日制課程である。全生徒に奨学金（授業料・生活費の補助）が与えられるが、シンガポール永住者および留学生は授業料の支払い義務がある（学費が異なる（高額な）ため補助では賄いきれない）。オーケストラ楽器やピアノ、作曲といった学科がある。



南洋工科大学 (NTU) (School of Art Design and Media)

美術分野の学位を得られる4年生の学部が用意されている。

4. 文化芸術事例



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

(1) 日本とシンガポールの文化芸術施設の比較

	日本	シンガポール
運営方法	国立（独立行政法人） 県立や市立（自治体） 私立（個人、企業）	国立（国家遺産局(NHB)ほか） 私立（個人、企業）
価格設定 （区分の一例）	・一般/大学生 ・個人/団体 ※高校生以下、65歳以上、心身に障害のある者は無料の施設が多い	・シンガポール国籍保有者や永住者/それ以外 ・一般/中学生以下や60歳以上、心身に障害のある者 ※シンガポール国籍保有者や学生、教師は無料の施設もある
価格帯 一般価格 （常設展示）	500円～1,300円程度	S\$6～S\$20程度 （約678円～2,260円）

出典：各美術館のHP

4. 文化芸術事例



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

(2) 施設例

①シンガポール国立博物館(National Museum of Singapore)

1887年にオープンしたシンガポール最古で最大規模の博物館。

シンガポールの歴史やシンガポールのライフスタイルを学ぶことが出来る。

<博物館としての特徴>

- ・ 歴史に重点が置かれており、13世紀から現在までを4つの時代に区切って展示
- ・ 日本統治下の「昭南島時代」についても、詳しく触れられている
- ・ イギリス植民地時代の動植物の記録「William Farquhar Collection」を展示
→これを題材にチームラボ（※）が常設展を開始（2016年～）
- ・ 「Singapore Night Festival」などのアートイベントの会場に



※チームラボ：東京に本社のあるデジタルコンテンツ制作会社



Story of the Forestの様子 出典：teamLab公式HP

4. 文化芸術事例



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

(2) 施設例

② ナショナルギャラリーシンガポール

(National Gallery Singapore)

2015年に旧市庁舎や旧裁判所を改築して作られた世界最大級の美術館。
シンガポールを始め、珍しい東南アジアの現代美術を中心に集められている。

○美術館としての特徴

- ・歴史的保存建造物の活用
- ・海外の美術館とパートナーシップ締結
- ・子供のためのイベント・プログラム
- ・展示以外でも楽しめる場所
- ・多くのアートイベントの会場

○展示内容

- ・草間彌生展（2017年）初の日本人アーティスト展示会
- ・チームラボ（2017、2018年）



4. 文化芸術事例



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

(2) 施設例

- ③ シンガポール美術館 (Singapore Art Museum)
1996年にオープンしたシンガポール初の美術館。
ミッションスクールを改築して作られ、東南アジアの絵画や彫刻
などの現代美術が集まる。

- ・ シンガポールビエンナーレを主催
- ・ 現在改修工事中で2026年再開予定。



- ④ アートサイエンスミュージアム (Art Science Museum)
2011年にオープンした蓮の形が特徴的な美術館。
マリーナベイサンズを運営するラスベガス・サンズ社が運営し、
同敷地内にある。

- ・ チームラボの常設展示
- ・ 国際巡回展示の開催
- ・ 科学的展覧会の開催



4. 文化芸術事例



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

(2) 施設例

⑤ エスプラネードシアター (Esplanade Theater)

2002年にオープンした総合芸術文化施設。

2つのコンサートホールとシアターを中心に多様な公演が行われている。レストランやショップのあるモールが併設されており、シアター内のフリースペースや最寄りの駅に直結した地下道もアートのスペースとして活用。シンガポール政府から助成を受ける公益法人エスプラネード社が運営。

- ・ アマチュアへの公演機会の提供
- ・ 無料で楽しめるイベントの開催
- ・ 2022年に新ホールを建設



⑥ プラナカン博物館 (Peranakan Museum)

1912年に建設された小学校の校舎を1994年にアジア文明博物館として改築された際、プラナカン展示が好評を博したことから、2008年にプラナカン博物館としてオープンした。

シンガポールならではのプラナカン（東南アジアの女性と結婚した外国貿易商人の子孫）文化に関する博物館。

宝飾品、家具、食器、工芸品（刺繍品）などが展示されている。



出典：Peranakan Museum 公式HP

- ・ 4年間の改修工事を経て2023年2月に再開

4. 文化芸術事例



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

(2) 施設例

- ⑦ アートハウス (The Arts House at the Old Parliament)
旧国会議事堂を改装して作られたアーツペース (2004年～)
絵画の展示、映画や劇の上演などを行う施設。

- ・ シンガポール・ライターズフェスティバルのメイン会場



- ⑧ ギルマンバラックス(Gillman Barracks)
2012年誕生の世界各国のギャラリーを誘致し集積させたアート地区
かつてイギリス軍の宿舎として使用されていた建物を改築したもの。

- ・ シンガポール経済開発庁 (EDB)、芸術評議会 (NAC)、
JTCコーポレーション(商業地区開発管理法定機関) が共同開発
- ・ 6.6haの敷地に17のギャラリーと機関が入居
うち日本のギャラリー 2つ (「オオタファインアーツ」「ミズマアートギャラリー」)



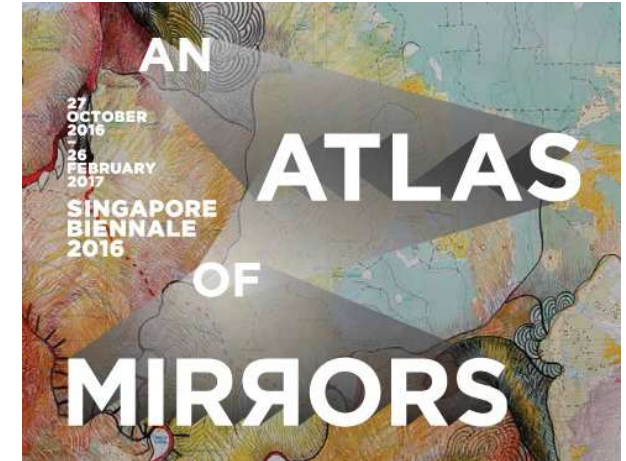
4. 文化芸術事例



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

(3) イベント

- ① シンガポールビエンナーレ(Singapore Biennale)
2006年から開始した東南アジア現代美術展示会＜2年に1回開催＞
 - ・ シンガポール美術館が主催
 - ・ 第7回目2022年10月～2023年3月
- ② シンガポール・ライターズフェスティバル (Singapore Writers Festival)
1986年から開始した国際的な文学イベント＜2011年から毎年開催＞
 - ・ 第27回目2024年11月8日～17日
 - ・ シンガポールや世界各国から作家や出版社が参加し、作品を紹介
 - ・ 日本人作家の青山剛晶氏（名探偵コナン）
綿矢りさ氏（蹴りたい背中）も過去参加
- ③ シンガポールアートウィーク (Singapore Art Week)
2013年から開始したシンガポール最大の芸術イベント
芸術評議会（NAC）、シンガポール政府観光局、経済開発庁の共催で
年に一度開催され、国内のアーティストやアート・プロジェクトを国内外に紹介
する場となっている。
 - ・ 文化芸術施設、街中、個人宅などでも開催
 - ・ プロジェクションマッピングの人気の高い



～ ご清聴ありがとうございました ～

E N D



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore